

景観まちづくり講演会

「畝傍山・神武陵・橿原神宮 の近代」

令和4年3月13日（日）13:30-15:30

橿原市役所分庁舎ミグランス 4F コンベンション
ルーム

主催/NPO 法人八木まちづくりネットワーク

後援/橿原市

令和4年
3月13日(日)

要予約 午後1時30分～午後3時30分
先着順70名 (開場 午後1時)

聴講無料

会場/橿原市役所分庁舎ミグランス4F
コンベンションルーム
申込方法/FAX又はE-mailをお願いします。
詳細は裏面をご覧ください。

主催/NPO法人 八木まちづくりネットワーク
後援/橿原市
問合せ/Tel.080-2530-7828

一部/「JR畝傍駅 駅舎の歩み」
一般社団法人 奈良建築士会 会長 米村博昭

二部/「畝傍山・神武陵・橿原神宮の近代」
京都大学人文科学研究所 教授 高木博志

景観まちづくり講演会

畝傍山・神武陵・
橿原神宮の近代

講師/高木 博志
1988年立命館大学文学研究科博士課程後期修了。
1991年北海道大学文学部助教授、1998年
京都大学人文科学研究所助教授、2012年同教授。
主な著書に、『近代天皇制の文化史的研究
―天皇就任儀礼・年中行事・文化財』『近代
天皇制と古都』『橿原と文化財の近代』『
博物館と文化財の危機（共編）』など。

講演の概要

日本書紀には、672年に大海人皇子（のちの天武天皇）が、壬申の乱の勝利を祈願して「神武天皇陵」に武器などを奉納したとあります。すなわち今日の古代史では、古事記・日本書紀の編纂が本格化する7世紀後半に、始祖としての「神武神話」が創り出され、壬申の乱からそう古くない時期にその墓が造営されたと考えられています。そして

平安遷都後に、忘れ去られた神武陵を再び、1863年に畝傍山麓のミサンザイに修陵事業により造営するのです。つまり神武陵は1200年あまりの間に2度、創造されたのです。そして明治維新の理念は「神武創業」であり、1890年には神武天皇を祀る橿原神宮が創建されました。

幕末から1940年の紀元二千六百年記念事業まで、畝傍山山麓は、畝傍山・神武陵・橿原神宮からなる三位一体の聖地、神苑として景観整備されてゆきます。この間には、洞・畝傍・久米などの村々の移転問題もあります。また幕末以来の神武陵への参詣路は今井町からで1893年の畝傍駅（高田・桜井線）開業後も南下ルートですが、1923年の橿原神宮前駅開業により、橿原神宮門前や神苑整備とともに人の流れが変化してきます。こうした「神武創業」を視覚化する近代のプロジェクトを、段階を追って考えてゆきたいと思います。（京都大学人文科学研究所教授 高木博志）



講師/高木 博志

1988年立命館大学文学研究科博士課程後期修了、1991年北海道大学文学部助教授、1998年京都大学人文科学研究所助教授、2012年同教授。主な著書に、『近代天皇制の文化史的研究―天皇就任儀礼・年中行事・文化財』『近代天皇制と古都』『陵墓と文化財の近代』『博物館と文化財の危機（共編）』など。

自己紹介

奈良・京都の近代の文化史や政治史を研究。かつては斑鳩町史、現在は生駒市史編纂に関わり、橿原神宮文書の調査もした。奈良に関心を持っている。

畝傍駅舎について



（米村博昭「JR 畝傍駅 駅舎の歩み」講演を受けて）

歴史的なものが今に生きているかが重要で、畝傍駅はまさしく近代化遺産である。

畝傍山について

畝傍山は旗本の領地で江戸期までは荒れていた。1884 年に大和三山名勝地化、1891 年に皇宮地附属地＝皇室財産化された。

現在の歴史学における皇統譜について（神話上の存在へ記紀批判）

古事記・日本書紀に書かれているものがどこまで遡れるか。推古天皇まででは。5-7 世紀の政治思想の反映が日本書紀と思われる。

弥生時代の初め（紀元前）に鉄器を持った神武天皇は考えられない。紀元前 7C の神武陵はフィクションである。

神武天皇陵は 2 度造られた



1 度目は、7 世紀の記紀神話の編纂時、天皇号成立時

2 度目は、1863 年(文久 3)幕末の修陵事業、「神武創業 J」の維新の理念

なぜ「橿原市」となったか

1956 年（昭和 31 年）2 月 11 日、高市郡八木町・今井町・畝傍町・真菅村・鴨公村・磯城郡耳成村が合併して発足。初代市長は好川三郎。紀元節の復活とともに「建国文化都市」として建国記念日に発足。八木市、高市市、今井市ではなく橿原市に。皇室にとってこの地域が大事だった。

なぜ神武天皇が近代に重要になるか

平安時代に京都に都が移ると天武系から天智系になり神武天皇は忘れ去られる（お黒戸の位牌：天智・桓武・平安京歴代の天皇）

- 文久 3 年(1863) 畝傍山・神武陵
- 明治 10 年(1877) 明治天皇の大和行幸で神武陵親謁
- 明治 23 年(1890 年) 橿原神宮
- 大正 4 年(1915) 大正大礼、大嘗祭のあと神武陵親謁（畝傍駅前の橿原神宮の碑）
- 昭和 15 年(1940) 紀元 2600 年記念事業
明治 10 年行幸中に西南清掃が勃発し、明治天皇が京都御所に半年留まる。この頃から伝統を大事にする近代国家像に転換。世界の一等国を目指す動

きになる。

1917 年の洞村移転問題

畝傍村、久米村、大久保村の移転もその前にあった。

伊勢神宮をモデルに 1890 年代から神苑を計画、一体感のある景観が欲しかったのが目的

富岡鉄斎のプロデュースの大和行幸

鉄斎が行幸のルートを生産

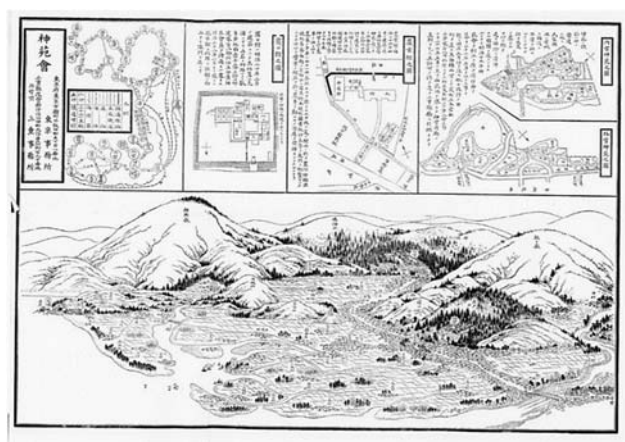
明治 10 年(1877)：行在所(東大寺東南院)、正倉院御物天覧(蘭奢待切り取り)→今井町行在所(称念寺)→神武天皇陵親祭

資料の一部

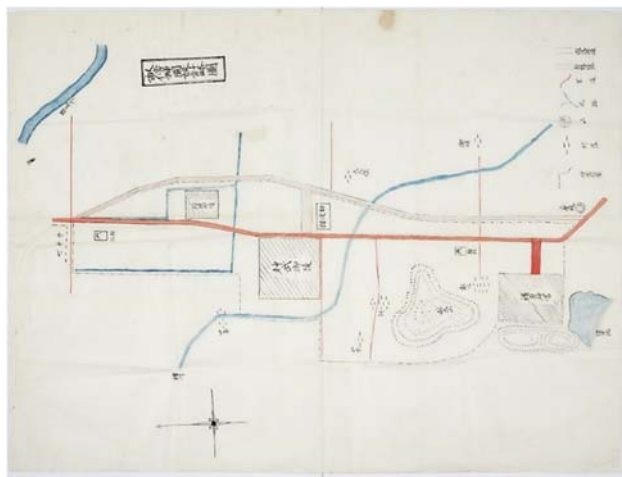
まほろばデジタルライブラリー

<https://www.library.pref.nara.jp/>より

神苑会関係書 (奈良県庁文書)



伊勢神宮の資料



畝傍神園設計略図

内容注記

神武陵及び橿原神宮拡張のための畝火神苑会創立による寄附金募集認可願、神苑会会員賛助員名簿(東京事務所、三重事務所扱)、畝傍神苑会仮規則/寄付金募集願は、町村ごとに発起人を集めて提出されたのでこれが簿冊中のかなりの部分を占める。末尾に無関係の「尚武学校請賛助之旨趣」あり(開始:明治 30 年 12 月 完結:明治 31 年 12 月)

(稻上文子)